

広げよう 介護予防の輪

vol.3

～総合事業特別号～

10年後に備えて 今、できること

目次

- 介護予防・日常生活支援総合事業とは？…2
- 前橋市が目指す高齢者福祉のカタチ……3
- 生活支援体制整備事業の解説……4・5
- 高齢者支援に関する取り組み事例紹介…6・7
- お知らせ……8

平成30年3月1日発行
発行：前橋市介護高齢課

TEL.027-898-6276
FAX.027-223-4400



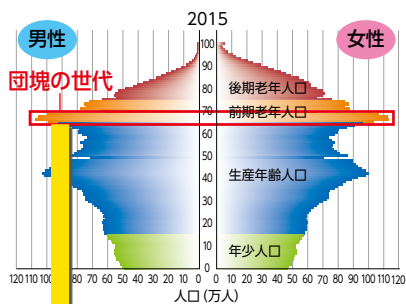
介護予防・日常生活支援総合事業とは？

前橋市では、平成29年4月から介護予防・日常生活支援総合事業（以下、「総合事業」）を実施しています。総合事業は、介護保険制度が抱えていた課題を解決するために導入されたもので、①サービスの充実と②介護保険給付の抑制を主な目的としています。

全国一律であった介護保険制度によるサービスを、創意工夫によりその市町村に適したものに改良することができ、また団塊の世代が効果的な介護予防に取り組むことで、介護保険のサービスに頼らずに日常生活を送り続けられるようにすることを意識した制度となっています。

世代別人口構成のグラフ

（国立社会保障・人口問題研究所作成）



急激な高齢化

1stステップ

団塊の世代の方々が…

地域での役割を持ち、社会参加することで、生きがいの創出や介護予防に

2ndステップ

団塊の世代が元気に活躍することで…

- ・健康寿命が延びる
- ・現役世代の担い手不足をカバーできる

介護保険給付の抑制

（介護保険財政の限界を乗り越える）

介護保険のサービス

- ・施設介護サービス（特養・老健等）
- ・地域密着型介護サービス（認知症GH、小規模多機能等）
- ・福祉用具購入
- ・住宅改修
- ・居宅介護サービス計画（ケアプラン）
- ・居宅介護サービス（通所介護・訪問介護・短期入所等）

画一的なサービス

1stステップ

軽度者向けのサービスが…

画一的な介護保険制度から、創意工夫が可能な市町村事業に

2ndステップ

制度が柔軟になることで…

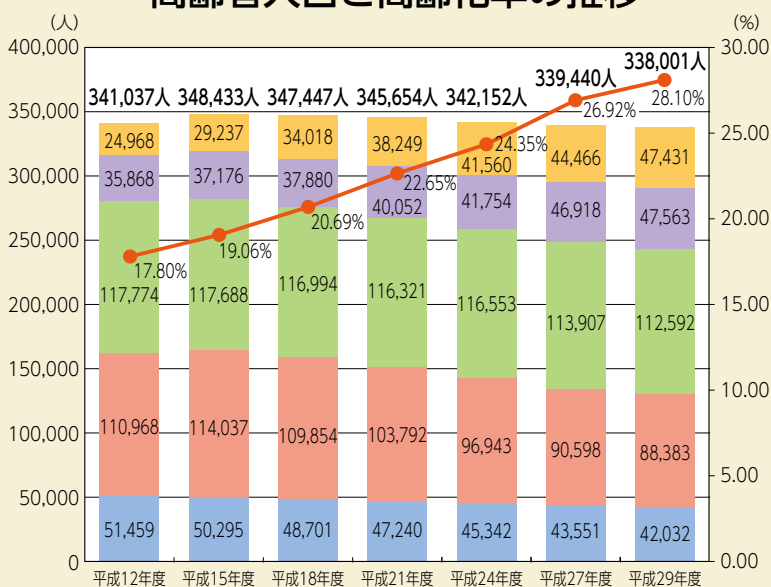
従来の介護保険事業所に加え、民間法人・NPO・ボランティア団体・地縁組織などサービス提供主体が多様に

サービスの充実

（画一的なサービスの限界を乗り越える）

総合事業の目的

高齢者人口と高齢化率の推移



総人口は、約10年前から減少傾向で、ピーク時から約1万人減少しています。高齢化率は、介護保険制度が始まった平成12年から3年ごとに1.5%~2.0%ずつ上昇し、40%弱まで上昇すると見込まれています。

- 高齢化率
- 75歳以上
- 65~74歳
- 40~64歳
- 15~39歳
- 0~14歳

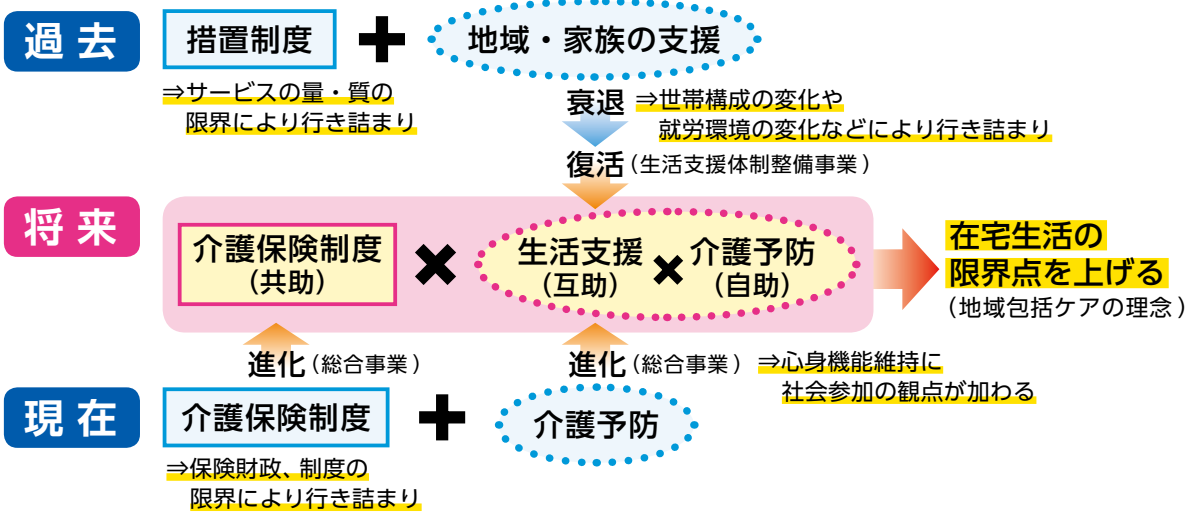
数字で見る

高齢化に関する前橋市の現状

日本では、諸外国に比べて高齢化が非常に進んでいると言われていますが、実際はどのようなのでしょうか。内閣府発行の平成29年版高齢社会白書によると、現在の日本全体の高齢化率は、27.3%。約25年後に高齢者数はピークを迎え、4,000万人弱が65歳以上になると推計しています。平均寿命が延び、出生数は減少する状況の中、40~50年後の高齢化率は、40%に迫る勢いです。前橋市においても同様の傾向にあります。現時点での具体的な数字を確認することで、私たちが住む前橋の未来をイメージしてみましょう。



前橋市が目指す高齢者福祉のカタチ



「介護が必要な状態になっても、誰もが安心して住み慣れた地域で暮らし続ける」という「地域包括ケア」の理念をカタチにするということは、在宅生活の限界点を上げることが大切です。そのためには、自助・互助・共助(公助)を必要の人に必要タイミングで過不足なく届けることが大切です。

支えが必要な人ほど、「助けて」という声をあげることが難しいことがあります。タイムリーな支援のためには、介護の専門職の目だけでなく、日頃からの気遣いにより生まれる地域からの目も欠かせません。

また、介護保険制度(共助)を一度利用し始めると、「支援される人」になりがちです。制度に依存するだけでなく、自ら行う介護予防(自助)や、互いに助け合う生活支援(互助)を上手に活用し、トータルで高齢者の暮らしを維持する視点が必要です。

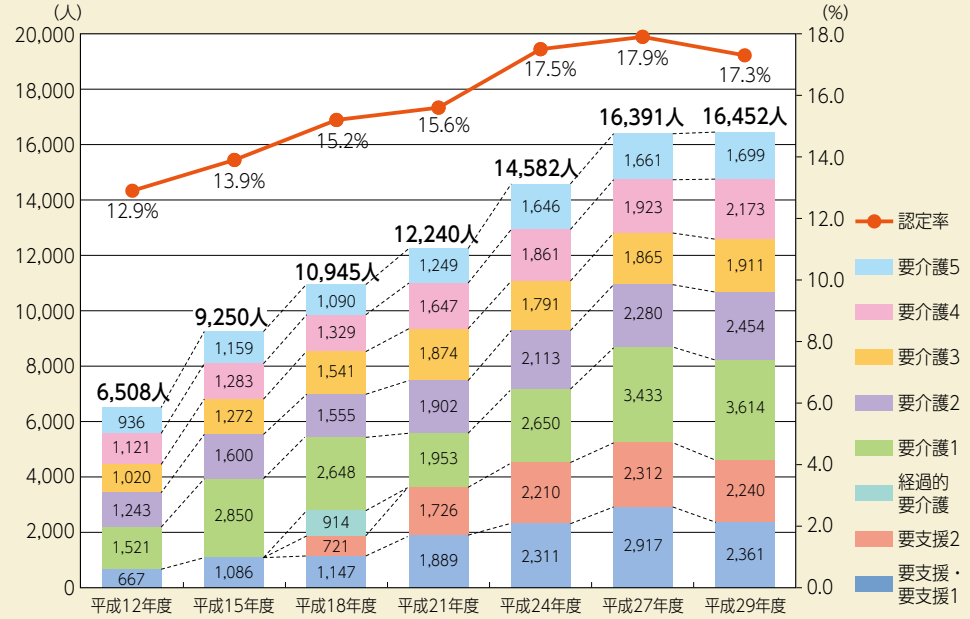
そして何より、共に生活する地域の一員として、誰もが役割を持てる社会ができれば、高齢者だけでなく誰もが安心して暮らせる社会になるのではないのでしょうか。

介護保険料の推移

期間	基準月額保険料
第1期 H12-14	2,792円
第2期 H15-17	3,100円
第3期 H18-20	4,067円
第4期 H21-23	3,725円
第5期 H24-26	4,825円
第6期 H27-29	5,783円
第7期 H30-32	??円

介護保険料は、主に介護保険サービスの利用量によって増減します。介護保険制度が開始されてから、介護保険料は既に2倍以上になっています。このまま保険料が上昇し続けると、制度の維持が難しくなってきます。

要介護認定者数・認定率の推移



要介護認定者数は、高齢化の進展とともに、右肩上がり増加しています。ただし、総合事業が始まったことにより、要支援1・2相当の方は、認定申請を経ないでサービスの利用ができるようになったため、平成29年度では、要支援1・2の認定者数が減少しています。

要介護認定率は、過去5年17%台で推移しています。反対から見ると、高齢者のうち8割以上の方は、介護保険を利用せずに生活していることになります。



市民協働がキーポイント

介護保険制度が成熟度を増すことで、高齢者支援の中心は地域・家族による支援から専門職による支援の流れが強まり、現在に至っています。同時に、福祉のニーズは多様化・複雑化し、一対一の個別支援では対応が難しくなってきたという現状もあります。

今後、更に少子高齢化が進むことが確実な中、安心して暮らしていける社会をつくるためには、専門職の力だけでなく、地域の応援が必要です。みんなが持っている力を少しずつ持ち寄ることで、新たな解決の糸口を見つけることができるかもしれません。時代の変化に合わせた高齢者支援の在り方が、今求められています。

高齢化の始まり

措置の時代（行政処分としての福祉サービス）～平成12年
⇒高齢化の進展により、行政だけではニーズへの対応が困難に

本格的な高齢化

介護保険の時代（自己選択としての福祉サービス）平成12年～現在
⇒保険制度の成熟化の一方、地域・家族による支援が弱まる

世界に類を見ない高齢化

包括ケアの時代（自助・互助による福祉サービス）現在～10年後？
⇒地域・家族の支援を現代版に改良し、担い手の減少をカバー

今ココ

人口減少を伴う高齢化

??の時代（次世代の福祉サービス）

めぶく。



When good things come
この事は、まだ知らない。
嵐が吹かぬ、雨を降らぬ、太陽の熱うその身をみせぬ。
とらでいつか、我をいつか、雲を撃たぬ。
誰かいない事なる目を射抜いて。
人は芽だ、この眼は芽だ、そしてつらぬがは芽だ。
いまは強い芽だけれど、未来の太陽を照らし持つ芽だ。

When good things come
この種ではつまらぬ、育てぬ。
ここから、よきものを育びてゆく。
いつか強い芽が育ち、やがては大きな木をたくわえてゆく。

When good things come
めしたは、この種の芽吹きのために、
未来の太陽の熱うその身をみせぬ。
嵐が吹かぬ、雨を降らぬ、
誰かいない事なる目を射抜いて。
人は芽だ、この眼は芽だ、そしてつらぬがは芽だ。
いまは強い芽だけれど、未来の太陽を照らし持つ芽だ。

When good things come
めぶく、芽だ。
静かな太陽の下にはたくさんの種が、めぶくのを待っている。



生活支援体制整備事業とは？

失われつつある地域や家族による高齢者の支援を、いかにして取り戻せるかを考えるのが、「生活支援体制整備事業」です。

これまで、国や市町村といった行政機関は、公平・公正・平等な運営

内容「住民同士が、地域の困りごとを、解決に向けて話し合う」事業



を必要以上に重視するあまり、ときに住民自治に干渉し、本来あるべき住民自治の形を歪め、地域の力を損ねてきてしまった面もあると考えています。

その反省から、「生活支援体制整備事業」では、地域の方々と地域包括支援センターや社会福祉協議会と一緒に、解決に向けて話し合い、時代の変化に合わせた高齢者支援の在り方を考える手法をとっています。

この事業を進めることで、超高齢社会を乗り切る真の力が、行政にも地域にも備わってくるのが期待されています。

効果1 地域の全体が見えてくる（“知る”ステージ）



効果2 地域への視点が変わる（“気付く”ステージ）



効果3 地域の活動が生まれる（“動く”ステージ）



つながりはありますか？

現代は、パソコンやスマートフォンなどの端末機器を通じて、人と人が簡単につながれる時代になっています。特にSNSを介したコミュニケーションは、若年層の間では日常であり、生活上欠かせないツールといっても過言ではありません。

コミュニケーションツールを用いたつながりは、世界中の人々との交流を、そして距離を超えた交流をリアルタイムで可能にした点において、大きな意味があり、個人が情報発信者としての地位を持つようになり

て、大きな意味があり、個人が情報発信者としての地位を持つようになり

各地域で始まっています

前橋市では、「生活支援体制整備事業」を平成28年度から開始しています。高齢者福祉を仕事としている専門職が現状把握を行ったうえで、平成29年度から地域住民の方々との懇談を始めています。

市内にある各地区社会福祉協議会（協議会数123）をベースに、平成29年度は11、平成30年度は12の地区で、順次進めています。

地区社会福祉協議会は、地域の皆



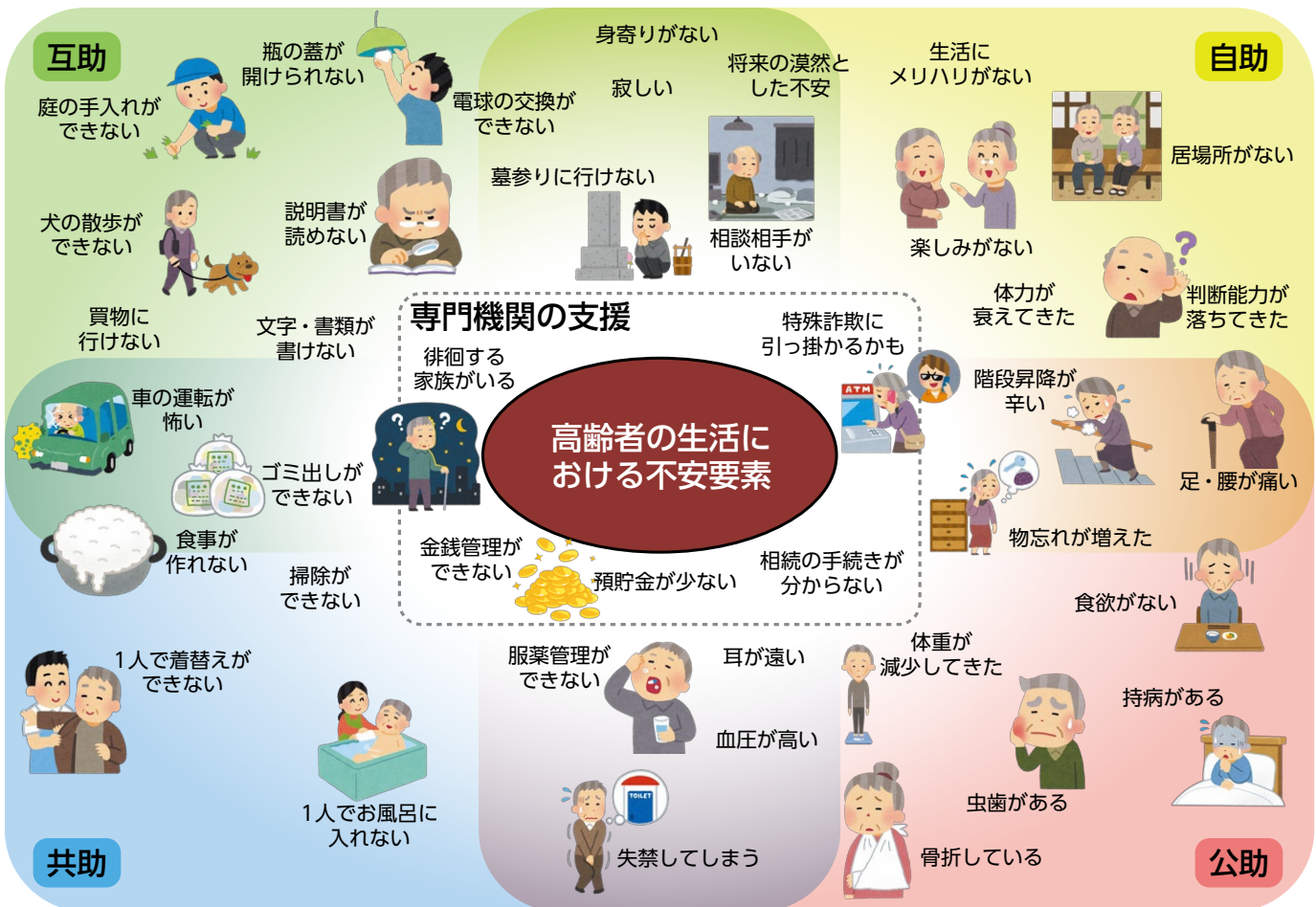
さま全員が会員です。地域のことを知りたい、地域の方とつながりたい、地域の困りごとを解決したい方は、是非ご参加ください。

でなりました。

一方で、従来のコミュニケーションの主流であった人と人との接触を介した交流は、年々その存在感が薄れつつあります。

社会が成熟し、便利な世の中になればなるほど、直接的な交流がなくても、日々の暮らしは成り立ってしまします。でもそれは、私たちが望んで来た結果でもあります。

コミュニケーションのカタチが変わり、何を失い、何を得たのか。皆さんはどのように考えますか？





高齢者支援に関する 取り組み事例紹介

総合事業が始まるよりも前に、既に高齢者支援に先駆けて取り組んでいる団体があります。

各団体は、どんな思いで活動を始め、何を目標に高齢者支援に取り組んでいるのでしょうか。それを紐解くことで、新しい高齢者支援のヒントが見つかるかもしれません。

それぞれの団体が支援できているのは、前橋市に住んでいる人のうち一握りの方々です。きっかけさえあれば、「地域に貢献したい」、「高齢者を支援したい」と考えている人も多くは、臆せずに、一歩前に踏み出すことで、思いを形にしてみませんか。誰もが住みやすい地域をつくるために、あなたの力が必要です。



団体名称	主な活動
NPO かけはし	病院等への送迎、大掃除・障子張りなどの介護保険外の援助、通院介助、入退院の準備
NPO ハートフル つつじ会	草むしり、庭木剪定、買物代行、軽作業などの高齢者の困りごと全般
NPO つなぎ手	移動販売、ごちそうさま事業（地域での会食）、お互い様事業（困りごと支援）

事例 1

NPOかけはし

☎027-261-3955

前橋に4年ぶりの大雪が降った翌日、ともに90歳代の夫婦2人で暮らすご自宅を訪問した。妻は、認知症の影響で服薬管理も難しく、夫は体調が悪く床についているため、頻回に訪問をしているお宅。まずは雪かきからと思って到着すると、既に庭先から玄関まできれいに雪は解けていた。「かけはし以外のどなたかが、お手伝いしてくれたのでしょうか。」と担当者の町田さんは笑う。

介護保険がスタートした平成12年、制度では賄えないようなこと、その先を見据えた助け合いの取組みを始めた。お弁当の配達や家庭ごみの搬出、夏は草刈り、冬は大掃除や障子張りのお手伝いなど地域で困っていることに何でも相談にのり挑戦してきた。毎日の訪問を必要とする人ほど制度で全てをやりくりするのは難しい。1人の“生活を支える”ために利用上限のある制度だけでなく、ちょっとプラスした気付きの支援をすることを大切にしている。

気に掛けてくれる支援の輪がかけはしの活動以外に



も広がっていることは間違いない。ただ、関わる人達にも高齢化の波は押し寄せている。かけはしで活躍するボランティアの方々の中心は70歳代で、将来継いでいく人材

が育っていない状況。ボランティアが無償から有償へと変わりつつあるなか、金銭的な対価だけでなく、ボランティアを社会が認め、育む仕組みづくりが、支援の輪を広げるヒントになるのかもしれない。（山田）



事例

2

NPOハートフルつつじ会

☎027-269-3650



南橘地区を中心に高齢者などの困りごとの支援を行っているのがNPO法人ハートフルつつじ会だ。今は夫婦二人暮らしだが自分も必ず一人になる時が来るといふ不安があり、市が開催するコミュニティービジネスセミナーの参加をきっかけに共感できる仲間4名が諸田代表を中心に集まった。現在は登録会員13名で元気に活動中だ。

高齢者などは怪我や病気でなくても出来ないことが少しずつ出てくるもの、善意だけでは限界があるがビジネスの要素を取り入れれば続けられると活動を開始。植木の手入れや草刈りなどが中心だが、ガラス拭きや家の中のちょっとした困りごとも、いくつかまとめて30分程度になれば対応可能となっている。

プロの仕事には及ばないが、高齢者はコストを抑えたエコな生活を求めていることが多く、かえって質よりも安価であるかどうかと問われていると感じている。その分、アフターフォローすることで信頼関係を



継続できるように利用者との対話をとても大切にしている。対話することで活動内容も改善できるし、状況の変化によっては連携できる機関やサービスへ繋ぐことも可能。

ニーズは確実にあるので活動を広げたいが、仲間がまだまだ足りないため色々な技術や知識を持った共感できる同志をもっと増やしたいと熱意を語ってくれた。

(大崎)

事例

3

NPOつながぎ手

☎027-285-4711

午後1時、食料品を積んだ軽トラックが、小さな神社の空きスペースに停ると、待ちわびていたかのように3人の高齢者が、次々と神社に集合する。地域の商店が、徐々に減っていく中、買物の頼みの綱は、子どもたちの存在とつながぎ手が実施している移動販売だと、1人の高齢者は言う。

つながぎ手では、「困ったときにSOSが出せ、支え合いながら、安心して暮らせる地域づくり」をモットーに、会員制の助け合い活動を行っている。困りごとがあっても、相談に行けない人に対して、初期段階での対応ができればと社会福祉士でもある内山代表が活動を始めた。会員同士が助け合うことで、支援する側や支援される側と決めつけず、それぞれができることで支え合える関係をつくっていききたい。そんな思いに共感し、当初20人



だった会員は、立ち上げから2年半を経て60人を超えるまでになった。

平成29年秋からは、粕川町内の4か所に行政が支援する「はつらつかフェ」をオープンし、気に掛け合える関係を作る取組みを始めている。この他にも、月1回「ごちそうさま事業」と題し、食を通じた交流にも力を入れている。

移動販売車が停まる脇には、空き缶で作った灰皿と小さな手作りのベンチが2つ。お天気の日には、ここに座って小さな井戸端会議が始まる。移動販売も欠かせないけれど、こんなささやかな交流が、安心して暮らしていける大きな原動力になっていると感じた。(林)

募 集 し て い ま す

地域住民の皆さまへ

生活支援体制整備事業

P4～P5で紹介した「生活支援体制整備事業」を各地域で展開しています。

随時、地区ごとに制度の説明や研修を実施しています。ご興味のある方は、社会福祉協議会地域福祉課までご連絡ください。

訪問型サービスA

総合事業の開始に伴い、ヘルパーとして働くことのできる人の基準を緩和したサービス（訪問型サービスA）を、前橋市では創設しました。市で実施する研修を受けることにより、これまでより短期間で安価に訪問介護の従事者としての資格を取得することができます。

随時、広報及びホームページでご案内しておりますので、ヘルパーの仕事に興味がある方や仕事をお探しの方は、前橋市介護高齢課地域包括ケア推進係までご連絡ください。

企業の皆さまへ

スペースの募集

本誌をご覧になり、総合事業の趣旨に賛同し、高齢化社会に向けて企業として「貢献したい!」とお考えの場合は、前橋市介護高齢課地域包括ケア推進係までご連絡ください。

特に、地域の居場所として活用できるスペースを募集しています。具体的な利用方法は、地域のニーズに合わせて、一緒に考えさせていただきます。



●前橋市介護高齢課 地域包括ケア推進係

☎027-898-6276

●前橋市社会福祉協議会 地域福祉課

☎027-237-1112

編集後記

市役所の仕事の中で、こんなにもクリエイティブな仕事は他にないかもしれません。

第1層協議体である生活支援体制検討会議のメンバーは着実に増え、日々つながりも広がっていることを実感し、その都度、自分自身も喜びを覚えています。

「きれいごと」だと思われるかもしれないこの取り組みですが、誰かをつながり誰かの役に立てる喜びはすべての人に共通する喜びだと思います。

「一人の百歩より、百人の一步!」小さな力が、今、一つになり始めています。

(林)



生活支援体制検討会議（第1層協議体）のメンバー